



令和7年2月14日  
釜石海上保安部

## さよなら鮭ヶ崎灯台のフレネルレンズ ～災害に強い灯台を目指し75年の役目を終えました～

岩手県宮古市重茂の本州最東端の地に立つ鮭ヶ崎灯台は、3月10日に、電源が商用電源から太陽光発電に、光源が電球(放電灯)からLED(発光ダイオード)に変更、停電の影響を受けない災害に強い灯台に生まれ変わります。

鮭ヶ崎灯台の商用電源は、姉吉漁港付近から灯台まで約4kmの山中を東北電力ネットワーク(株)の架空配電線路を経由して供給されています。

これまでに、台風や発達した低気圧等の影響で、倒木や斜面の崩落により電柱の倒壊や架線の切断が幾度となく発生、その度に停電が発生し、非常用発電機で灯台の電源を維持しました。

特に、令和元年10月13日の台風13号では、配電線路の復旧に時間を要し、19日間にわたって停電が続き、職員が約4kmの山道を灯台まで非常用発電機の燃料を背負って補給、灯台の灯火等を維持させました。



災害に強い灯台への工事に伴い、2月12日には、昭和25年6月23日から今日まで、およそ75年間、三陸の海のみちしるべとして、船の航海の安全のために本州最東端の海を照らし続けてきたフレネルレンズも役目を終え、2月14日には、撤去されました。撤去作業の様子を報道機関8社が取材しました。

鯨ヶ埼灯台は、明治 35 年 3 月 1 日に設置され、太平洋戦争中の昭和 20 年 7 月 14 日にアメリカ軍の攻撃で破壊されましたが、戦後間もない昭和 25 年 6 月 23 日に、海上輸送路の戦災復興のために再建され、今日まで、このレンズが大切に使われてきました。

なお、このようなガラス製の大型レンズの製造技術は既に世界中で途絶しており、二度と製造できません。

釜石海上保安部では、撤去したレンズは博物館、教育施設や地方自治体等は無償譲渡し、多くの人々に見てもらうために展示してもらい、海上輸送の重要性と海難防止や海上保安業務の理解促進に役立てたいと考えております。

